

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	6単位	必修
担当教員			
北村 光子・井上 美代子・宮元 預羽			

講義概要	介護現場での実習を通して、利用者ひとりひとりの生活リズムや個性を理解するという視点から、介護とは何かを学ぶ。 利用者、家族との関わりを通じたコミュニケーション、他職種連携、これまで学んだ生活支援技術を実践する基礎的能力を習得する。また、利用者の暮らしや住まいといった環境面を理解しながら、その人らしい生活を維持するための個別ケアの重要性について理解する。
授業計画	<p>グループホーム実習 7日間（56時間） 《実習目的》 認知症対応型共同生活介護の特徴や役割を知り、利用者の自立支援のための日常生活援助の方法を理解する</p> <p>訪問介護実習 2日間（16時間） 《実習目的》 訪問介護の特性や役割を知り、利用者の特性に応じた生活環境に対する生活支援技術の方法を理解する</p> <p>障害者施設実習 7日間（56時間） 《実習目的》 障害者施設の特徴や役割を知り、人権の尊重した個別性のある介護の方法を理解する</p> <p>介護老人保健施設 7日間（56時間） 《実習目的》 1. 介護老人保健施設の特徴と役割を知る 2. 利用者の心身状況に応じた専門職としての視点、及びチームとしての連携方法を踏まえて、生活支援技術を的確に選択し実践できる。 3. ICFに基づいたアセスメントができる。</p> <p>リハビリテーション病院 3日間（24時間） 《実習目的》 1. リハビリテーション病院の概要やチームの一員としての介護福祉士の役割がわかる。 2. 患者の炊く生（機能障害）に配慮したコミュニケーションの方法を理解する。 3. 患者とその家族とコミュニケーションを図り、身体的・心理的・社会的側面から患者を総合的に理解する。 4. ICFに基づいたアセスメントができる。 5. 患者のADL、IADLや潜在能力を考えた日常生活援助の方法を理解する。</p>
授業形態	実習
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①介護実習の意義目的を理解する</p> <p>②人権尊重や自立支援を基本に生活ニーズに関する情報を収集し、生活支援に活かすことができる</p> <p>③実習を通して、実習施設の基本理念、目標を基に利用者の生活・心身の状況に応じた生活支援技術を学ぶ</p> <p>④介護に関する過程、他職種連携、地域連携を学び、介護の探究する姿勢を身につける</p> <p>⑤介護職の職業倫理や姿勢・態度を学び、実践力を身につける</p>
教科書・参考書	<p>テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会「新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規出版。</p> <p>テキスト：長崎短期大学介護福祉実習マニュアル。</p>
履修条件	6
履修上の注意	
オフィスアワー	実習前後で対応します。
備考・メッセージ	短大で習ったものを介護現場で確認すること、介護現場での課題を短大に持ち帰り再学習すること、の繰り返しを行ってください。介護実習の前後の課題を大切に取り組んでください。何事にも誠実に取り組んでください。